

第3 産業振興の基本的な考え方

1 基本理念

世界にはばたく成長エンジンと 地域経済循環の絆で形づくる “滋賀発の産業・雇用”の創造

豊かな自然環境や歴史遺産・文化資産があり、地理的条件に恵まれた本県は、古来、木地師や石工から始まるモノづくりの技や、近江商人の活躍に凝縮された産業の遺伝子ともいべきものを引き継ぎ、また、琵琶湖を守るといふ県民や企業等あらゆる主体の強い意志のもと、環境保全に取り組みながら経済発展を遂げてきた地です。

このような中で、多彩な知的資源をはじめ、先端技術分野から地域に根ざした産業まで多種多様な産業が集積し、これらを基盤にして、産学官等による連携の中から、優れた技術やノウハウが生み出され、蓄積されてきました。

人口減少・少子高齢化の急速な進行や経済のグローバル化の進展など、経済・社会の構造的な変化が進む中、これらの資源や強みをしっかりと引き継ぎ、最大限に活かしながら、滋賀から、これからの時代を切り拓く「新しい価値」を創造、発信し、本県経済の発展や雇用の維持・拡大、地域の活性化につなげていくことが重要です。

- 環境保全と経済発展の両立など、国内外の課題解決への貢献
- 地域の多様性や固有の資源を活かした魅力向上
- 地域での人と人のつながりの構築など、暮らしの安全・安心

これらの実現に向け、産業に携わるすべての関係者が一体となって、「変革と創造」に挑戦し、国内外の需要を開拓し、取り込むことのできる、本県経済の成長の“エンジン”となる産業の創出・振興を図るとともに、県内の産業や企業、人のつながりを一層深め、地域において、人・モノ・資金が活発に循環する経済社会づくりを進めます。

世界にはばたく成長の“エンジン”となる産業の創出・振興と地域経済循環の促進を両輪として、本県経済の活性化を図るとともに、次代を担う若者をはじめ、男性も女性も、高齢者も障害者も、誰もが、自らの能力を活かしていきいきと働くことのできる雇用を創出します。

県民一人ひとりが将来に希望と安心感を持つことができ、企業が自らの事業活動に誇りを持てる、そして、みんなが豊かさを実感できる滋賀を共に創造していくことを目指します。

2 ビジョンが目指す姿

本ビジョンでは、10年後の姿として、以下の姿を見据え、その過程において、その時々々の経済・社会情勢の変化等に柔軟に対応しながら、計画的に産業振興施策を進めていくこととします。

- これまでの産業集積を基盤にした「新たな成長産業の創出」により、
環境と両立した、日本を支えるたくましい経済が創造されています。
- 独自技術や競争力のある商品・サービスを生み出す「挑戦する企業の活躍」により、
地域経済の活性化、雇用の維持・拡大が図られています。
- 琵琶湖をはじめとする豊かな地域資源や特性が活かされ、「世界に通用するブランド価値の発信」により、
滋賀のステータスが向上しています。
- 地域の課題や日々の暮らしに根ざした「地域貢献企業の集積」により、
地域を支え、地域が潤う循環型経済が確立しています。
- 多様な主体の連携の中から生み出される「イノベーションの連続」により、
新たな価値が創造され、国内外の需要に迅速かつ柔軟に対応できるビジネスモデルが次々と展開されています。

3 産業振興施策を進めるにあたっての視点

前述の目指す姿の実現に向け、以下の8つの視点を産業振興の基本方針として、施策を推進します。

① 産業活動を支える「事業環境づくり」の視点

産業振興施策の推進にあたっては、これまでに築き上げられてきた産業集積をしつかりと維持していくという視点に立ち、県内で操業する大企業、中小企業・小規模事業者のそれぞれが、その強みを活かして、経済・社会情勢や需要の変化に対応し、円滑かつ着実に事業活動を展開できるよう、ソフトおよびハードの両面から、環境の整備を図ることが重要です。

また、それぞれの地域の特性や実情に応じて、創業や新分野への進出等といった新たな挑戦が活発に行われ、さらなる産業の集積が図られる環境づくりを進める必要があります。

② 地域の特性を活かした「まちづくり」の視点

企業活動を支えるのは企業で働く人やその家族であり、若者や女性、高齢者や障害者等、誰もが安心して暮らすことができ、魅力あるまちづくりを進めることが産業の維持・集積を図り、企業の創造的な活動を促進していくうえで重要な視点となります。

子育て支援や介護サービスをはじめ、身近で買い物や食事ができる環境、災害対応など安全・安心の確保、コミュニティの形成、教育・文化・スポーツ環境の充実等、様々な産業のつながりの中から、誰もが住みやすく、また、人々の交流やにぎわいのあるまちづくりを推進していくことが求められます。

③ 産業を担う「人づくり」の視点

人口減少・少子高齢化の急速な進行により、労働力人口の減少が懸念される中、本県産業を担う人材の育成・確保が不可欠です。

人づくりは、すべての活動の基盤になるものとの視点に立ち、産業のニーズにあった人材の育成・確保を図るとともに、若者、女性、高齢者、障害者等の活躍を促進していくことや起業家の育成を図る等、意欲と能力のあるすべての人が自らの力を最大限に発揮して働くことができる魅力ある雇用の場を創出していく必要があります。

④ 多様な産業の集積を活かした「つながりづくり」の視点

時代の大きな転換期にあり、人々の価値観が多様化する中、新たな需要を開拓していくためには、従来にない発想や手法が求められますが、これには、様々な主体の有する強みや力を持ち寄ることが重要です。

こうした視点から、多様な産業や技術、人材が集積し、豊富な地域資源を有する本県の強みを活かし、様々な主体のつながりの中から、新たな価値や活力が自律的かつ持続的に生まれる環境づくりを進める必要があります。

⑤ 中小企業の強みを伸ばす「競争力づくり」の視点

本県の中小企業は、時代の変化の中で、高度な技術力と幅広い分野に対応できる展開力等を蓄積し、また、近江商人の「三方よし」の理念の実践に努めながら、着実な発展を遂げてきました。

地域の経済や社会の担い手として重要な役割を果たしている中小企業の有するこうした「先を見通す力」や「技術力」、「経営理念」等は、本県産業の大きな強みであるとの視点に立ち、その事業の持続的な発展と競争力の一層の強化を図っていく必要があります。

⑥ 追随を許さない「モノづくり」の視点

本格的な人口減少社会に突入し、国内市場の縮小が予想されるとともに、新興国の成長など海外との競争が一層激化する中であって、これからは、世界市場に視点を置いた付加価値の高いモノづくりを進め、国内外の需要を積極的に取り込んでいくことが一層求められます。

ニッチトップやオンリーワンを目指した技術開発を促進するとともに、サービスの提供等と一体化した商品の開発や農林水産業等との組合せにより、本県の特徴であるモノづくりの競争力強化を図っていく必要があります。

⑦ 滋賀ならではの「ことづくり」の視点

人々の価値観が多様化し、これまでの「モノを作れば売れる時代」から、創造性が求められる時代にあって、消費者の感性に訴えるストーリー性やテーマ性を高めて県内外に発信していくことが重要です。

このため、地域の資源を新たな視点で見つめ直し、価値を高め、創意工夫を活かした事業展開の一層の促進を図るとともに、分散している個々の資源を面で捉えられるような、地域としての滋賀のブランド化を目指します。

⑧ 一人ひとりの県民の「幸せづくり」の視点

人口減少・少子高齢化社会を迎える中で、これまでの発想や価値観を転換し、新たな視点から、県民一人ひとりの幸せや豊かさを実感できる社会を実現していくことが求められています。

今日、地域の多様性や固有の価値が再発見される中、豊かさの視点を地域に置いて、企業や人がつながり、コミュニティの再生や暮らしの課題解決に結びつく等、地域の中で、人・モノ・資金が循環するような産業の創出・振興を図るとともに、誰もが生きがいを感じながら働くことのできる雇用の場を創出していくことが必要です。